

毎号、研究員をクローズアップして、業務内容や仕事に対する思いをご紹介します。



Vol. 05

多摩テクノプラザ
繊維・化学グループ
副主任研究員

池田 紗織

大学・大学院修士課程にて分析化学を専攻。現在、依頼試験業務で、さまざまな材料分析に携わる。趣味はサッカー観戦。



元素111の新知識*
桜井 弘／講談社 ISBN4-06-257192-7

元素の事典
馬淵 久夫／朝倉書店 ISBN4-254-14044-4

いろいろな元素の用途がわかり、分析の際に役立ちます

お客さまの先の行動を見越して フォローできる相談相手でありたい

幅広い分野の専門知識を 求められる機器分析業務

私が専門とする分析化学は、化学の分野では派手な分野ではないかもしれませんが、新たな現象が発見される際には、必ず新たな分析手法の発見や開発がセットになっています。例えば、ある現象が発見できたのは、ナノメートル単位で観察する方法が開発されたからこそであったりするので、そういった点にとっても興味を持ちました。

現在は、蛍光X線分析装置やフーリエ変換赤外分光光度計(FT/IR)を使った機器分析を主に担当しています。お客さまから分析を依頼される材料は、本当に多種多様です。幅広い知識が求められるのは大変ですが、やりがいにも通じます。

あまり経験がない材料を分析するときには、他の研究員に助言を求めることもあります。私は入所以来、ずっと多摩テクノプラザの所属なので、本部などの他の事業所には、顔をあわせたことのない研究員もいますが、「○○について教えてください。」と電話で相談すると、丁寧に教えてくれます。

常に意識しているのは 企業への責任

多摩テクノプラザで整備している機器だけですべてが解決するとは限りません。そのような中でも、できるかぎり対応してお客さまに良いアドバイスをしたいと考えています。例えば、異物分析では、その物を分析するだけでなく、製品の製造過程などを詳しく知ることも大切です。どんな状況で異物が発見されたのか、どんな頻度で起こるのか、といったことを細かくヒアリングしています。

また、結果報告では、ご相談いただいたお客さまだけでなく、その先にいる方へもお客さまからきちんと説明していただけるよう、フォローするよう心がけています。

私が担当する機器分析では、結果をどう解釈するかによっても企業側の判断が変わってきますので、その責任を常に意識しています。

都産技研で働いているからには、いつでもお客さまに頼りにされる存在でありたい。そう考えています。

小さい異物の分析では、顕微鏡の付属した装置を使います。



お客さまから得られる情報は、分析結果と同じくらい重要です。



サッカー日本代表戦を観戦しにオーストラリアへ行きました



お問い合わせ 繊維・化学グループ<多摩テクノプラザ> TEL 042-500-1291